

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会保障と法 Social Security and Law				担当者所属 職名・氏名		法学研究科 教授 稲森 公嘉			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		法・政治・経済(各論)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月2			配当学年	全回生		対象学生	全学向
[授業の概要・目的]											
この講義では、私たちの日々の暮らしを支えている社会保障の制度についての正確な理解を得ることを主な目的とする。 社会保障とは、国民の生活保障を目的として、稼得生活が中断したり稼働能力が損なわれたりしたときに一定の所得を保障し、あるいは、ニーズを有する者に医療や福祉のサービスの利用を保障する制度をいう。日本では、憲法25条に定められた生存権の保障を具体化するものとして戦後に発展してきたが、今日では少子高齢化をはじめとする社会・経済・政治的な環境の変化への対応を迫られており、制度の持続可能性が懸念されている状況にある。 社会保障制度のあり方については人々の関心も高く、そのあり方をめぐってさまざまな主張が交わされているが、議論の中で往々にして見落とされがちなのが、制度は法によって創設され、法に基づいて運用されるものであるという点である。社会保障制度の課題とあり方を、社会を担う一人一人が自分の問題として考えるために、この講義では、現在の社会保障制度について、それを基礎づけている法律の条文等を参照しながら、可能な限り網羅的に概観していくこととする。											
[到達目標]											
私たちの日々の暮らしを支えている社会保障のしくみについて、正確な理解を得る。その上で、現在の制度の課題を論じ、今後のあり方について考察する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。 ただし、講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して、順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
第1回	イントロダクション										
第2回	年金（1）										
第3回	年金（2）										
第4回	医療保障（1）										
第5回	医療保障（2）										
第6回	医療保障（3）										
第7回	介護保険・高齢者福祉										
第8回	労災補償										
第9回	雇用保険										
第10回	社会手当・社会福祉総論										
第11回	児童福祉										
第12回	障害者福祉										
第13回	公的扶助（1）										
第14回	公的扶助（2）・生活困窮者支援										
第15回	試験										
第16回	フィードバック										
----- 社会保障と法(2)へ続く↓↓↓ -----											

社会保障と法(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験による。

【評価基準】＊平成26年度以前のカリキュラムの適用学生

到達目標について以下の評価基準に基づき評価する。

80～100点：目標を十分に達成しており、優れている。

70～79点：目標について標準的な達成度を示している。

60～69点：目標につき最低限の水準を満たすにとどまる。

0～59点：目標について最低限の水準を満たしておらず、さらに学習が必要である。

【評価基準】＊平成27年度以降のカリキュラムの適用学生

到達目標について以下の評価基準に基づき評価する。

96～100点：目標を十分に達成しており、とくに優れている。

85～95点：目標を十分に達成しており、優れている。

75～84点：目標について良好な達成度を示している。

65～74点：目標について標準的な達成度を示している。

60～64点：目標につき最低限の水準を満たすにとどまる。

0～59点：目標について最低限の水準を満たしておらず、さらに学習が必要である。

[教科書]

授業中に指示する

その他、随時資料を配布する予定です。

レジュメは事前にKULASISに上げておきます。

[参考書等]

(参考書)

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障〔第14版〕』（有斐閣）ISBN:9784641220935

菊池馨実編『ブリッジブック社会保障法』（信山社）ISBN:9784797223323

西村健一郎・水島郁子・稲森公嘉編『よくわかる社会保障法』（有斐閣）ISBN:9784641144675

いずれかの参考書を手元に置いて、予習・復習の参考にしてください。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前の予習は特に必要ではないが、各回の内容をしっかり復習しておくことが望まれる。

[その他（オフィスアワー等）]

授業中、分からないことがあれば積極的に質問してください。